

■令和元年度第6回（第299回）都市経営戦略会議結果概要

【日 時】 令和元年8月30日（金）午後3時00分～午後3時40分

【場 所】 政策会議室

【出席者】 市長、日野副市長、高橋副市長、阪口副市長、水道事業管理者、教育長、都市戦略本部長、財政局長、総務局長、総合政策監、スポーツ文化局長

【議 題】 （仮称）大宮盆栽振興イベントについて

< 提 案 説 明 >

（仮称）大宮盆栽振興イベントについて、スポーツ文化局長から次のとおり説明があった。

- ・ 大宮盆栽に関する現状としては、産業としての活力が低下する一方、国内の女性や若い世代、海外での盆栽ブームなどが挙げられる。
- ・ 大宮盆栽に関する課題としては、愛好家の減少や後継者の不在などが挙げられ、盆栽村周辺の盆栽園は、最盛期には30園以上あったが現在は6園に減少している。
- ・ こうした背景を踏まえ、盆栽振興に必要な施策として、「持続可能な盆栽業経営」、「後継者の育成、技術の伝承」、「大宮盆栽のブランド強化、PR」、「盆栽村の街並みの維持と村の魅力づくり・活性化」に資する施策を展開していく必要がある。
- ・ 盆栽振興施策に基づき、大宮盆栽振興プロジェクトによる全庁的な取組やさいたま国際盆栽アカデミーの開講のほか、継続的に大宮盆栽美術館での企画展示・特別展示などを実施している。
- ・ 2017年に開催された第8回世界盆栽大会では、来場者約12万人、経済波及効果10億円を超える大きなイベントとなり、今後、この世界盆栽大会のレガシーを継承していく必要がある。また、世界盆栽大会の最終日に「さいたま宣言」が行われ、次の100年へ向けて盆栽文化を発展させていく決意表明がなされ、今後、さいたま宣言の具現化に向けた取組を実施していく必要がある。
- ・ 以上のことから、次の100年へ向けて、盆栽振興施策の更なる推進、並びにさいたま宣言の具現化を達成するためのコアプロジェクトとして、（仮称）大宮盆栽振興イベントを開催したい。
- ・ イベントの開催に当たっては、大規模なイベントが持つ情報発信力・集客力を活用し、盆栽振興施策の更なる推進及び盆栽文化の発信を目指していく。
- ・ 持続可能な盆栽業経営に資する施策として、収益拡大・販路拡大を目的とした盆栽販売を行い、段階的に国外の関係団体とネットワークを構築し新たな販路拡大の場となるよう展開していく。
- ・ 後継者の育成、技術の伝承に資する施策として、国際盆栽アカデミー修了者と連携

したワークショップや若手盆栽師の作品展示を行い、将来的には外国人盆栽師や外国人参加者を積極的に取り込んでいく。

- ・ 大宮盆栽のブランド強化・PRの施策として、盆栽シンポジウムや海外の姉妹館等との取組内容の発表などを行い、将来的に国外の盆栽関連施設と連携したシンポジウムや研究発表などを発展的に実施していく。
- ・ 開催時期については、第1回は2020年に東京2020大会の開催に合わせおもてなしイベントとして開催し、第2回は大宮盆栽村開村100周年にあたる2024年に開催したい。それ以降は、文化関連事業が毎年開催されるよう開催時期を検討していく。
- ・ 第1回については、東京2020大会の開催期間に合わせて実施する。ターゲットは東京2020大会で本市を訪れる国内外の観戦客及びメディアとし、盆栽の魅力や「さいたま＝盆栽」というイメージを発信する取組を中心に行う。
- ・ 具体的には、さいたま新都心駅周辺での盆栽展示や8月に姉妹館締結をした米国立盆栽・盆景園との連携事業の紹介のほか、大宮盆栽美術館において空間演出による新しいスタイルの展示やライトアップ、初心者向けのワークショップなど多くの方が盆栽を楽しめる企画を検討している。
- ・ 実施体制については、第1回は市主体で実施していくが、第2回以降は盆栽関係団体、地元自治会、商店街、民間企業などと連携するほか、市民ボランティアが参加できる体制を整えていく。
- ・ 第1回の事業費は、概算で4,000万円程度を想定している。

< 意見等 >

- ・ 文化庁の補助金活用の予定はあるか。
→文化庁に相談している段階であり、前向きに検討いただいている。
- ・ 盆栽村の活性化や後継者の育成を推進することを意識して開催していく必要がある。
- ・ 文化的、産業的な視点をもってイベントを発展させていってほしい。
- ・ オリンピック・パラリンピックとはどのように連動していくのか。
→オリパラのおもてなし事業に位置づけており、回遊策にも組み込まれている。文化プログラムの認証も申請する予定。人形博物館の開館、国際芸術祭の開催と合わせて一連の文化事業として東京2020大会を盛り上げていく。
- ・ 毎年文化事業が行われるように開催時期を設定するのもいいが、国際芸術祭などと同時間開催することも相乗効果を生むという考え方もある。
- ・ 大きいイベントと通常イベントのバランスが重要である。開催後に機運が冷え込まないよう通常の施策もしっかり推進していく必要がある。
- ・ 長期的なビジョンを描きながら進めてほしい。

< 結果 >

(仮称)大宮盆栽振興イベントについては、原案のとおり了承する。ただし、盆栽の文化的、産業的発展につながるよう、既存の盆栽振興施策を踏まえ、長期的なビジョンをもって進めること。また、イベントの企画・開催に当たっては、関係局と連携して実施すること。

< 会議資料 >

(仮称) 大宮盆栽振興イベントについて